

## 接触確認アプリ COCOA とプライバシー保護についての調査結果

### 【概要】

(1) 新型コロナウイルスの感染拡大防止のためには、感染経路の特定や濃厚接触者への迅速な情報提供は極めて重要である一方、非常事態下であっても、行動履歴などの情報が取得・活用されることの是非については、プライバシー保護の観点で懸念が生じる可能性がある。世界各国においても、どのようなアプリケーションでどのような情報を取得し、どのように感染拡大防止に活用するか、様々な取り組みが行われている。プライバシー保護と情報の利活用のバランスをどうとるべきか、が重要な課題となっている。

(2) 我が国では、6 月 19 日に、政府によって接触確認アプリ (COCOA) が導入された。COCOA は Bluetooth という技術を使い、電話番号、位置情報など個人が特定される情報は記録せず端末同士の接触 (おおむね 1 メートル以内に 15 分以上) のみを記録するアプリケーションである。しかし、プライバシーに最大限配慮したものとなっているにもかかわらず、ダウンロード数は 1873 万件 (10 月 22 日時点) にとどまっている。国民は、取得される情報の取り扱いに関し、何らかの不安を抱いているのか。それとも COCOA の感染防止対策上の有効性をあまり評価していないのか。

(3) 当財団はその実態及び背景を検証するため、本年 9 月 8 日から 9 月 13 日にかけて全国の 15-69 歳の男女を対象にオンラインによる意識調査を実施し、4166 サンプルを回収した。その結果、新型コロナウイルスに感染することを不安に思っている人は全体の 76.2%を占めているにもかかわらず、COCOA 利用者は 18.8%と 2 割以下にとどまっている。

新型コロナウイルス感染を不安に感じている人	COCOA 利用率
76.2%	18.8%

(データ編 P3, 4 参照)

(4) なぜ利用しないのか。その理由を全体の 8 割を占める非利用者に聞いてみると、その 47.3%の人が COCOA にプライバシーに関する懸念があると回答している。この点については、利用している人であっても 32.4%の人が懸念ありと回答しているものの、両者には相応の差が見られる。加えて、プライバシーに関する懸念が概ねないと回答した比率は、非利用者では 14.1%、利用者では 33.3%となっており、COCOA のプライバシーに関する懸念が利用率に影響している面があると伺える。

【COCOA プライバシーに対する懸念】

	全体	COCOA 利用者	COCOA 非利用者
(A) プライバシーに関する懸念あり	44.5%	32.4%	47.3%
(B) どちらとも言えない	37.8%	34.3%	38.6%
(C) プライバシーに関する懸念概ねなし	17.7%	33.3%	14.1%

(データ編 P5 参照)

(5) 次に、COCOA の感染拡大防止対策としての有効性はどう認識されているだろう。これについては非利用者全体の約 4 割が有効性ありと回答し、有効性なしとした人 (約 26.6%) を大きく上回っている。

(データ編 P6 参照) 他方、この両者の中でプライバシーに懸念を有している人の割合は、ほぼ同水準となっている。(効果があると回答した人の 55.7%、効果はないと回答した人では 54.7%) (下表参照)

感染対策に係る情報の取得において、プライバシーへの配慮を高めることと対策の有効性の間には一定程度のトレードオフの関係があるものと考えられる。しかし、COCOA の場合、その有効性に対する評価如何に関わらず、ほぼ同割合の回答者がプライバシーに関する懸念があると回答しており、今回の調査における国民意識においては、トレードオフの関係は成立していないと見られる。

【有効性とプライバシーに関する認識】

	感染拡大防止に 「効果あり」の回答者	「どちらとも言えない」 の回答者	感染拡大防止に 「効果なし」の回答者
(A) COCOA 非利用者全体の中での割合	38.1%	35.3%	26.6%
(B) 上記 (A) のうち「プライバシー懸念あり」の回答者数の割合	55.7%	32.6%	54.7%
(C) 上記 (A) のうち「プライバシーの懸念あり」 又は「どちらともいえない」の合計回答者数の割合	84.6%	92.8%	78.4%

(データ編 P7 参照)

(6) それでは国民が感じている COCOA のプライバシーへの懸念とは、どのようなものであろうか。本調査では感染拡大防止アプリケーションの選択肢として、位置情報 (GPS) を取得するアプリケーションと、相対的な位置情報の利用で接触を検知する Bluetooth を使ったアプリケーションを含めて数種類のアプリケーションの利用意向を聞いてみた。その結果、上記 (4) のとおり半数近くの人が COCOA についてプライバシーへの懸念を示していたにも拘らず、GPS と Bluetooth の利用意向者数はほぼ同数という結果が得られた。つまり、①GPS と Bluetooth の技術的な特性が異なるということや、②COCOA のように Bluetooth を用いるアプリケーションがプライバシーに配慮しているということが国民に十分に理解されていないのではないか、とも伺える。

【感染拡大防止のためのアプリケーションの選好度】

	GPS 位置情報	Bluetooth	交通カード利用履歴	防犯カメラ情報
利用したいと答えた者の割合	36.8%	36.5%	39.2%	35.1%

(データ編 P8 参照)

因みに、プライバシーの問題を離れ、現在 COCOA を利用しておらず、今後も使う意向がないと回答した人でも、スマートフォンなどに最初からインストールされていれば利用すると回答した人が 41.5%いることから、アプリケーションをインストールできない、またはインストールするのが面倒というもの、利用しない側面の一つとも考えられる。(データ編 P9 参照)

(7) 当財団としては、今回調査のフォローアップを含め、有事におけるプライバシー保護と情報の利活用のバランスをどうとすべきかの議論を引続き行っていくこととする。他方、現時点において、感染拡大対策として COCOA の利用者数の増加を図ることは極めて重要な政策課題であり、関係方面に於いて COCOA は対策の有効性を持ちつつ、プライバシーに配慮したアプリケーションであることを国民に十分理解してもらう努力を行うなど、今回調査の結果を踏まえた適切な対応が図られることを期待したい。

以上